*G*enius *C*aptain *D*eparture
ジーニアス辞書
Question Box

■ ■ ■

今回は，ジーニアス辞書によく寄せられる，辞書編集の趣旨や方法についての質問にお答えします。

Q. 近年，コーパスがよく話題になります。コーパスは辞典の編集にどんな影響を与えているのですか。

A. いまコーパス（corpus；複数形は corpora）といわれているのは「コンピュータ・コーパス」のことで，簡単にいえば，コンピュータに蓄えられた大量の文章（話し言葉を文字化したものを含む）の集積です。

辞書の編集にとって，コーパスは顕微鏡にたとえることができます。これまでのデータ収集（用例カード収集，ネイティブスピーカーの直観と内省によるデータなど）から見えなかったものが見えてくるからです。

たとえば，どういう形容詞が前にくることが多いか，どういう前置詞と共に用いることが多いかといった連語関係の実態は，コーパスを使って比較的容易に調べることができます。また，コーパスの構造にもよりますが，どの語義がよく用いられるか，ある文法事象が現れる頻度はどのぐらいか，といったことを知ることができます。

コーパスの構築・利用にあたっては，どういう英語がどういうバランスでどのぐらい収録されているかというコーパス自体の問題が重要です。アンバランスな内容のコーパスから帰納された情報は，現代英語の語法を正しく反映しているとはいえません。『ジーニアス英和大辞典』『ジーニアス英和辞典　第３版』[G３]の編集にあたっては，2,000万語のコーパス（書き言葉・話し言葉各1,000万語）を用いました。

ただし，コーパスは万能ではありません。語の使用頻度など形式面から判断できることについては得意ですが，文脈や意味が関わる面は不得意です。さらに，英語学習者にとって必要なのは，こう言えそうに思われるが実際にはネイティブスピーカーは言わない，というような情報ですが，通常のコーパスでは非文情報は抽出できません。

また，コーパスを使って見えてきたものが，すべて(学習)英和辞典に採り入れる価値があるとは限りません。それを見きわめるのが辞典の編者の仕事です。G３の編者は，語法研究の経験と知識をベースに，日本人の英語の知識・能力についての情報の長年の蓄積をフルに活用しながら，編集にあたってきました。

Q. 『ジーニアス英和辞典』で，「改訂版」（1994）までは主な動詞・形容詞に Ⓢ Ⓓ の表示があったのですが，「第３版」(2001)［以下 G３］ではなくなっています。これはどうしてですか。

A. この件は，改訂版の利用者アンケートで Ⓢ Ⓓ の表示はあまり利用されていないという結果が出たことが背景にありますが，根本的には，理論上の問題で Ⓢ Ⓓ 表示が誤解を招く場合があること，どちらともいえないケースが多いこと，が主な理由です。

Ⓢ / Ⓓ という記号は，もともと，

状態動詞・形容詞／**動作**動詞・形容詞

の別を示そうとしたもので，Ⓢ / Ⓓ という記号も stative / dynamic からきています。

Ⓢ 動詞・形容詞は，1)通例人の意志で制御できない状態を表すため，命令形（形容詞では Be ～...！という命令形）にできない，2)動詞の現在形・過去形等で状態を表すので進行形にできない，という特徴があります。

一方，Ⓓ 動詞・形容詞は，人を主語にした場合，1)通例人の意志で制御できる動作を示すので命令形にできる，2)動詞では進行形にできる，という特徴があります。

しかし，やっかいなのは，Ⓢ Ⓓ の区分が，人の意志でコントロールできるかどうかという特徴による区分や，進行形にできるかどうかという区分と，必ずしも一致しないという点です。特に，進行形・命令形と

の関連は複雑で，編集過程で挙がった例では次のようなものがあります。

(1a) It rained heavily.
rain は [S] だが It was raining heavily. は可

(1b) The box contains a lot of toys.
contain は [S] で，The box is containing... は不可

(2a) He smelled a rose.
[D] なので，He was smelling a rose. は可

(2b) He smelled smoke.
[S] なので，He was smelling smoke. は原則として不可，しかし文脈によっては可

(3) become [S] [SVC] 〈人・動物・物・事が〉…の状態になる
[S] だが，Become a subscriber and save 20%. のような命令文はダイレクトメールではごく普通（進行形の例は G 3 にあり）

もちろん，記号化してわかりやすく明示できたケースはたくさんあり，だからこそそれまで例のなかったこの表示を導入したわけですが，上記のような 3 種類の区分の食い違いが誤解を招く場合や，どちらともいえず「[S] [D]」とせざるをえない場合が少なからずありますので，編者の方でもいろいろ迷ったのですが，廃止することとした次第です。

なお，進行形・命令形の不可についての注は G 3 ではこれまでより詳しくして，[S] [D] の「効用」だった点は生かされるように配慮しました。

Q. 電子辞書はどのように作られるのですか。

A. 少し前までは，まず印刷所の大型コンピュータで入力・組版を行い，校正を経て書籍印刷用の組版データを完成させたあと，これをパソコンで扱える形式に変換して，必要な要素を整えて辞書データとして完成させる，という手順を経ていました。この辞書データを各電子辞書メーカーに提供し，またこれを元に小社の CD-ROM を作成したわけです。

最近は，パソコン上でかなりぎりぎりまで進行してデータを整え，ある段階でこれを印刷所に渡して組版を行い，最終的な校正を経て書籍の組版を完成させる，という方法をとっています。この場合，元データに，書籍の最終段階での修正と同じ修正を加えて，辞書データとして完成させるわけです。

小社から電子辞書メーカーに提供するのは辞書の中身であり，どのように検索するか，どう表示するかは電子辞書メーカー各社の考え・技術によっています。

（このコーナーは，『ジーニアス英和辞典　第 3 版』の編集主幹のひとり南出康世先生の見解を元にして，辞典編集部で Q & A にまとめたものです。）

◆英語教科書ホームページ◆

GCD Teacher's Room

毎月更新中！

大修館版英語教科書をご使用の先生方のためにホームページを開設いたしました。授業に役立つ情報満載です。以下のような手順でご覧いただけます。是非一度，ご来室下さい。

①お手持ちのブラウザで**http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/**を開きます。
↓
②トップページ
●“英語教育最新 TOPICS”――英語教育に関する話題を毎月更新して載せています。
“最新 TOPICS”の下に，各教科書のボタンがあります。（左の枠〈フレーム〉内の ‘Please select!’ の部分からも各教科書のページへジャンプできます。）
↓
③各教科書のページ
●“NEWS”または“Cafe”――教科書の題材についての最新情報，エピソードなどをご紹介しています。授業の導入などにお使い下さい。
●“題材リンク集”――各“NEWS”または“Cafe”の下にあるボタンか〈フレーム〉から開きます。教科書の題材について記述のあるホームページを紹介しています。見出し部分をクリックするとそれぞれのページにジャンプすることができます。教材研究にお役立て下さい。

（詳細は巻末広告もご覧下さい）

★各教科書のシラバスも掲載中です。ご参照ください。また，この G.C.D. 英語通信の記事もお読みいただけます。